



上より 上田剛/ Tsuyoshi Ueda, *Deep Sleep*, 2019, 真鍮/ Brass, H30×W20×D0.6 cm
畠山耕治/ Koji Hatakeyama, *円形のもの/ Round Shape*, 青銅铸造/ Cast Bronze, 2019, H6.4×W31.2×D31.5 cm
留守玲/ Aki Rusu, *躯体B/ Body 2*, 2018, 鉄/ Iron, H14.2×W60.3×D5.6 cm
水代達史/ Satoshi Mizushiro, *Camouflage -山藤-*, 2019, 銅、真鍮、鉄、銀メッキ、電解着色/
Copper, Brass, Iron, Silver plating, Electrocolouring, H58×W18×D12 cm

金属の平面表現

畠山耕治 留守玲 水代達史 上田剛

2019年10月5日(土) - 10月26日(土)

オープニングレセプション: 10月5日(土) 4:30 - 6:00pm

現代美術 艸居

京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2

開廊時間: 10:00-6:00PM 定休日: 日・月



プレスリリース

この度、現代美術 艸居では「金属の平面表現 畠山耕治 留守玲 水代達史 上田剛」展を開催致します。

金属という様々な表情や可能性を秘めた素材と向き合い、それぞれの表現を追求する金工作家四名による展覧会です。この機会に是非ご高覧いただけますと幸いです。

畠山耕治は銅器の伝統的産地として知られる富山県高岡市出身の金工作家です。型に溶かした金属を流し込む鑄金技法を用い、要素を極限までそぎ落としたシンプルで奥行き深いフォルムの作品を数々作り上げてきました。「素材には意識が宿っている」という考え方のもと素材と作家の相互作用によって作品表面に立ち現れてくる色彩や質感は、空間に清廉な存在感を放ちながら、雄弁に語りかけます。

本展では、武家の床の間にしつらえられた三幅の掛け軸をイメージした角棒状の大型作品「長形のもの」を中心に壁面作品を展示いたします。

留守玲は鉄材をガス溶接で溶接・溶断するという独自の制作技法で、鉄という素材との対話を続けています。「熔融、凝固、歪みなどの現象を凝視していると、そこには様々な金属の表情を発見する事が出来、その表情とは、表層の凹凸の事ではなく、色々な性格を持った鉄の状態の事である。」と留守は語ります。

本展ではこれまで作家が数多く取り組んできた床置きのおブジェ作品のほか、近年の新しい試みである壁面作品を展示いたします。溶接により紡がれた一本の鉄線は、はかなく繊細でありながら多量な情報を伴って観る者を思索の世界に誘います。

生き物と植物といった異なるモチーフを融合させ、対象物への緻密な観察と彫金技法により写實的に表現された作品が水代達史の持ち味です。「制作において、“童心”や“粋”と行った言葉で表現される遊び心を作品の中に表現している。」と水代は言います。自身の持つ技法や型に落とし込むのではなく、対象物の観察から得た発想を柔軟に造形に取り組み、また、独立した二つの要素を矛盾なく一つの作品に仕上げる巧みな構築力によって、洗練されたバランスを築き上げます。

上田剛は鑄金技法による立体、平面作品の制作を行う金工作家。数多く存在する制作行程の中でも上田が特に重視しているのは着色技法です。「金属という、一見硬く閉ざされたかのような物質に秘められた時間性や流動性を引き出し、様々な色や表情を抽出することに、魅力と可能性を感じている。」と上田は語ります。

金属表面を酸化させたり錆させたりすることで生まれる色彩は、熱の加え方、薬品の種類のみならず微細な条件の違いにより立ち現れてくるものであり、観る者にとってもそれは意外性と驚きをもって受け止められることでしょう。



畠山耕治（はたけやま こうじ）

1956年富山県生まれ。1980年に金沢美術工芸大学工芸科鑄金専攻を卒業し、現在は金沢美術工芸大学教授を勤めつつ富山県高岡市にて制作を行う。主な受賞歴には2000年第11回タカシマヤ美術賞、2007年佐野ルネッサンス鑄金展大賞、2012年第18回MOA岡田茂吉賞MOA美術館賞などがあり、主なコレクションとしてはヴィクトリア&アルバート美術館（イギリス）、フィラデルフィア美術館（アメリカ）、デンマーク王室、ヴィクトリア国立美術館（オーストラリア）、東京国立近代美術館など多数。

留守玲（るす あき）

1976年宮城県生まれ。2002年に多摩美術大学大学院美術研究科を修了し、現在は多摩美術大学工芸学科非常勤講師を勤めつつ神奈川県にて制作を行う。主な受賞歴には2003年第11回日本文化藝術奨励賞日本現代藝術奨励賞、2016年第2回菊池寛実賞、第27回タカシマヤ美術賞があり、コレクションとしては山口県立萩美術館・浦上記念館、菊池寛実記念智美術館がある。

水代達史（みずしろ さとし）

1982年千葉県生まれ。2011年に東京藝術大学美術研究科を修了し、現在は金沢美術工芸大学工芸科講師を務めつつ制作を行う。主な受賞/入賞歴には、2009年東京藝術大学原田賞、台東区長奨励賞、2010年Via art 2010審査委員池内務賞などがあり、海外においてもグループ展などへ多数出展している。

上田剛（うえだ つよし）

1986年奈良県生まれ。2012年に東京藝術大学美術工芸科を修了し、現在は富山県高岡市にて制作を行う。主な受賞/入賞歴には、2011年第6回佐野ルネッサンス鑄金展奨励賞、2012年東京藝術大学原田賞、2013年第53回日本クラフト展入選（同2014年）、2017年U-50国際北陸工芸アワードなどがある。

是非、貴誌・貴社にてご紹介いただけますと幸甚に存じます。

掲載用、写真の貸出などご質問がございましたら下記までご連絡頂けますと幸いです。

プレス担当：元林久美子

〒605-0089 京都市東山区古門前通大和大路東入ル元町 381-2

Tel: 075-746-4456 Fax: 075-746-4457

motobayashi@gallery-sokyo.jp www.gallery-sokyo.jp